

犬山市地域公共交通計画【概要版】

計画の背景と目的

犬山市には、広域的な移動を支える名古屋鉄道、明治村やリトルワールド等、主に観光施設を目的地とする岐阜バス、市内をきめ細かく回るコミュニティバスであるわん丸君バス、それらを補完する役割を持つ一般タクシーといった公共交通が運行しています。これらの公共交通によって、第6次犬山市総合計画や犬山市都市計画マスタープラン等のまちづくり計画と連携した公共交通ネットワークを形成する必要があります。

一方で、交通を取り巻く社会情勢は目まぐるしく変化しており、地域交通法の一部改正やDXの進展、運転手不足の深刻化等様々な課題があります。中でも、新型コロナウイルス感染症が与えた影響は大きく、公共交通利用者数が大きく減少しました。

本計画は、こうした背景を踏まえつつ、各種ニーズ調査結果から得られた市民や交通事業者の声を活かして、犬山市の公共交通の将来像を描く計画として策定するものです。

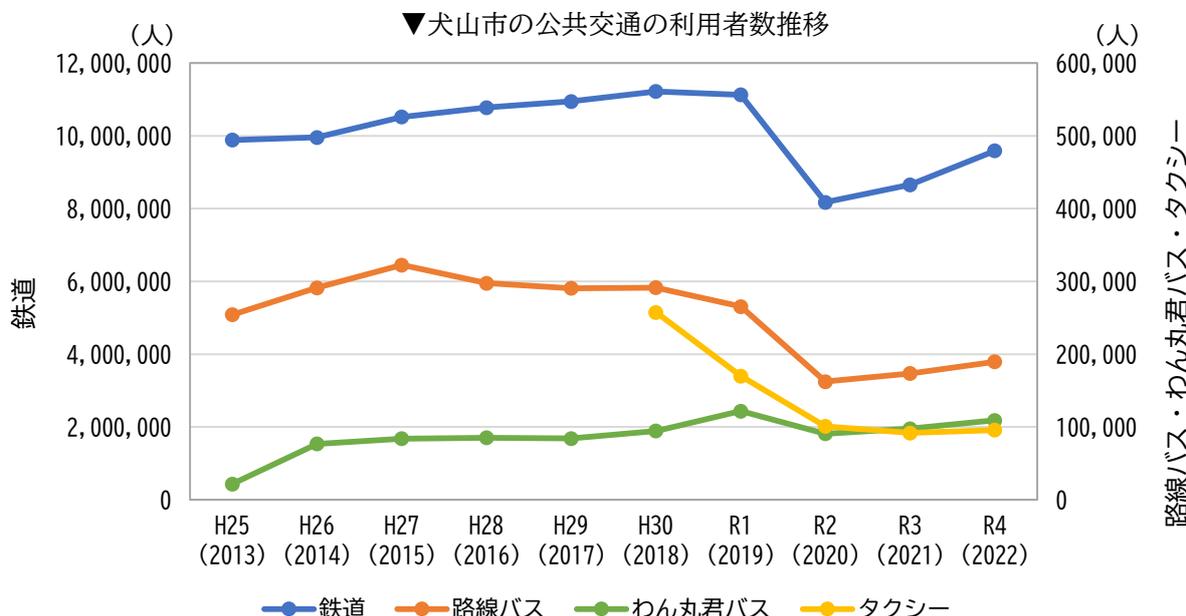
計画の区域と期間

本計画の区域は、市内の都市交通を一体的に取り扱うことから、犬山市全域とします。なお、周辺市町との連携にあたっては、個別に協議・調整を図ります。期間は、令和10(2028)年度までの5年間とします。

1. 公共交通の現状とニーズ

【犬山市の公共交通の利用者数】

公共交通利用者数は令和2（2020）年の新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少しました。その後回復傾向にあるものの、コロナ禍前の水準には至っていません。

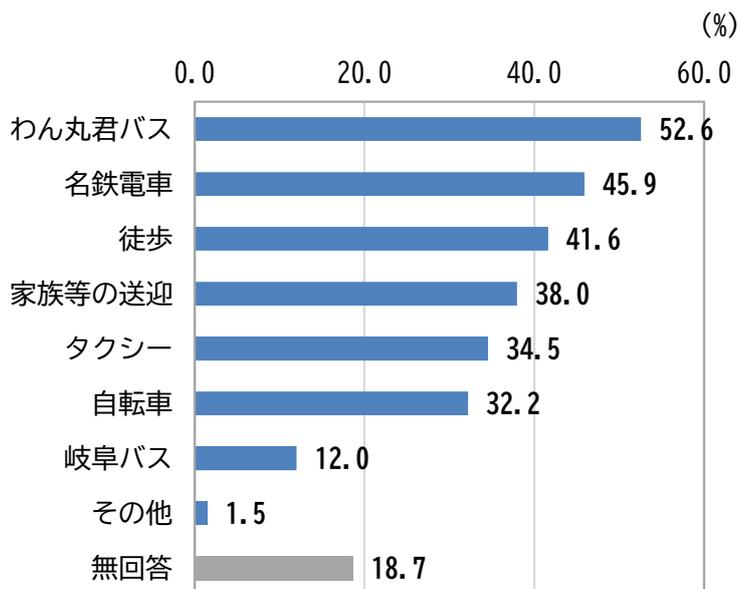


【市民・利用者ニーズ】

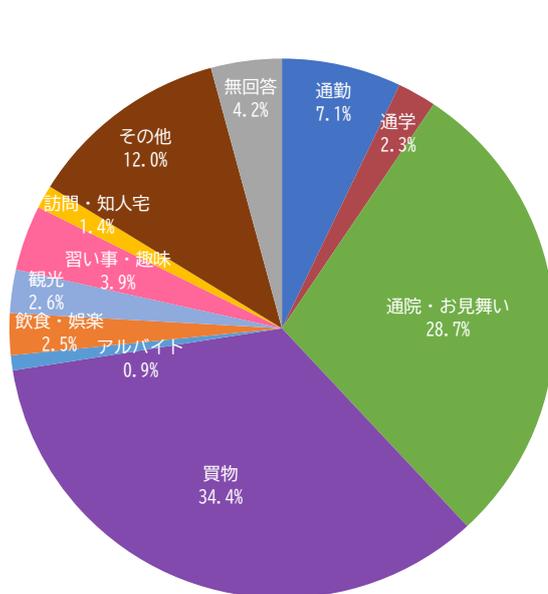
市民アンケート回答者の半数が、免許返納後に利用したい移動手段に「わん丸君バス」を選択しており、わん丸君バスへの期待が高いことがわかりました。

また、わん丸君バスの利用者アンケートからは、現在もわん丸君バスが様々な目的で利用されていることがわかりました。

▼免許返納後に利用したい（している）移動手段



▼わん丸君バスの利用目的

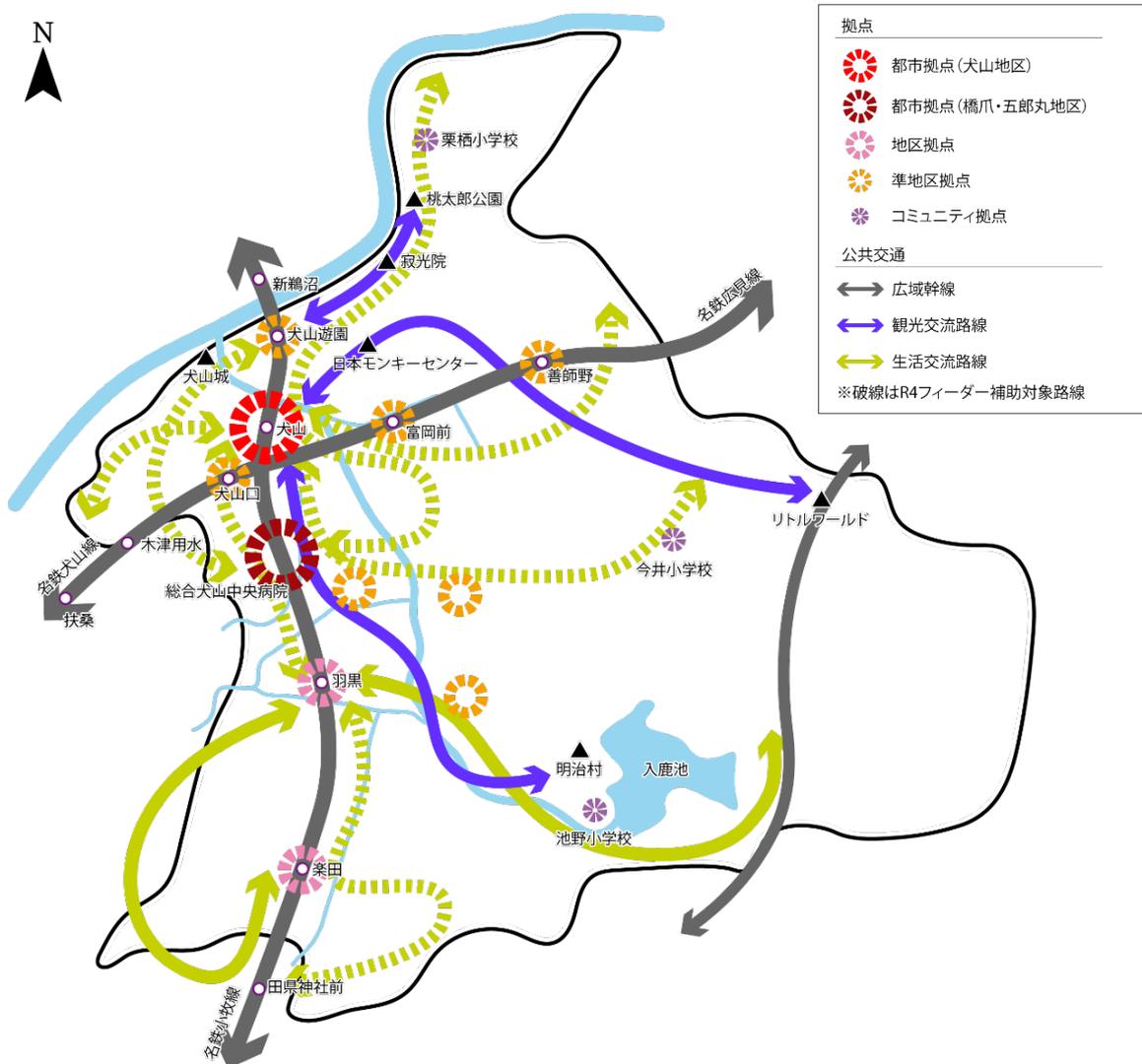


2. 犬山市の地域公共交通が目指す姿

犬山市の地域公共交通が目指す姿

公共交通が支える安心で快適な暮らし みんなつながるまち

▼犬山市の公共交通ネットワークイメージ



▼市内の移動サービスの位置づけと役割

位置付け	対象路線	路線の役割
広域幹線	名鉄犬山線、名鉄広見線、名鉄小牧線、東鉄バス	都市間を結ぶ広域的な移動を担う
観光交流路線	岐阜バス (明治村線、リトルワールド・モンキーパーク線) 名鉄バス (紅葉ルートバス)	市中心部や拠点と主要観光施設間の移動を担う
生活交流路線	わん丸君バス (朝便栗栖線、朝便今井線、楽田東部線、楽田西部線、善師野・塔野地線、内田線、栗栖・富岡線、上野線、今井・前原線、入鹿・羽黒線)	住宅団地と市中心部・主要施設間の移動を担う
個別輸送	タクシー、福祉輸送	他の公共交通でカバーできない部分の移動を担う

3. 基本方針と実施事業

基本方針1 まちづくりと連携した公共交通ネットワーク

- ・犬山市都市計画マスタープランや犬山市立地適正化計画といったまちづくりの計画と連携し、将来における都市構造の実現を支援する公共交通ネットワークを構築します。
- ・市民の日常的な移動需要や、市外からの来訪者を含めた観光等を目的とした移動需要に対応するため、市内及び近隣市町との公共交通ネットワークを確保・維持・活性化します。
- ・鉄道、路線バス、わん丸君バス、タクシーといった公共交通それぞれの機能や役割を明確化した上で、必要なサービスを確保・維持・活性化します。

主な実施事業

鉄道・路線バス・わん丸君バス・タクシーの確保・維持・活性化

市外や市内拠点間の有機的なネットワークによりまちづくりを支えるため、鉄道、路線バス、わん丸君バス、タクシーといった公共交通それぞれの機能や役割に応じたサービスを提供するとともに、確保・維持・活性化に向けた取り組みを実施します。

各公共交通の連携

市民や市外からの来訪者の移動需要に対応した市内及び近隣市町との公共交通ネットワークを確保・維持・活性化するため、鉄道、路線バス、わん丸君バス、近隣市町コミュニティバス等が連携を図ります。



基本方針2 快適な乗り継ぎ環境

- ・犬山駅や総合犬山中央病院といった主要施設に付帯するバス停は、交通結節点として公共交通相互の乗り継ぎを考慮したダイヤ設定や待合環境を確保します。
- ・過度な自動車利用から公共交通への利用転換を促すため、主要駅の駅前広場や駐車場・自転車等駐車場を維持・確保します。
- ・スムーズな乗り継ぎに必要な情報提供やキャッシュレス決済等を推進します。
- ・デジタル技術を活用してDXを推進し、移動の利便性を向上します。

主な実施事業

主要バス停の待合環境整備

主要なバス停において、商業施設等の休憩場所を活用するなど、待合スペースの確保を推進します。

▼商業施設内のバス待合スペース（延岡市駅前複合施設、旭川市商業施設）



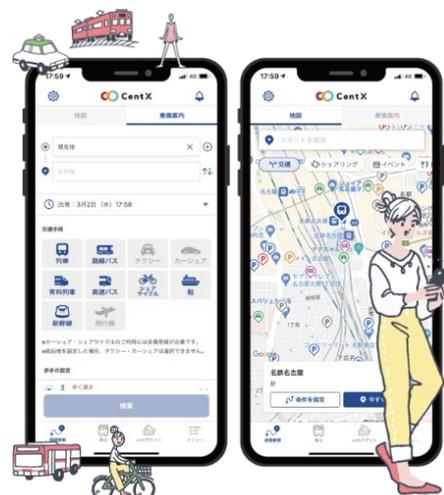
乗り継ぎに必要な運行情報の提供

鉄道・バス・タクシーといった公共交通では、経路検索アプリで乗り継ぎ検索が可能となっています。提供する情報の充実を図るとともに、こうしたサービスの認知度向上に向けた取り組みを実施します。

▼わん丸君バス運行マップ



▼乗換案内、web チケット等アプリ



※画面はイメージです

基本方針3 地域のニーズに対応した交通サービス

- ・市内の公共交通による人口カバー率は95.9%を有するものの、市街化調整区域の集落地等に交通空白地域が存在しており、こうした地域のニーズに対応した移動手段を提供します。
- ・路線ごとに異なる利用頻度や目的を踏まえ、わん丸君バス、デマンド型交通、タクシー等の活用を検討し、地域の移動特性に応じたサービスを提供します。
- ・高齢者が免許返納後にも気軽に外出ができるよう、高齢者の主目的である買い物や通院・お見舞い等に対応した移動サービスを確保・維持します。
- ・地域のニーズに対応した新たな移動手段については、地域の輸送資源や自動運転等の新たな交通サービスの活用も含めて検討します。

主な実施事業

地域の移動特性に応じたサービスの実施

買い物や通院といった日常的な移動を担うため、地域や年齢層の移動特性に応じたサービスを実施します。



基本方針4 災害にも安全・安心な公共交通

- ・近年日本各地で頻発している大雨や、発生が懸念されている東南海地震などの自然災害に備えて、被害の予防策や発生時の対応策の検討を推進します。
- ・災害時に必要な物資や被災者の輸送、車両の提供等、交通分野での新たな災害協定の締結を目指します。
- ・環境負荷の低減に資するとともに、災害時の非常用電源としても活用可能な電気バス等の導入を推進します。

主な実施事業

交通分野の災害協定の締結

災害時に必要な物資や被災者の輸送、車両の提供等、交通分野の支援について、民間企業や関係機関と災害協定を締結します。

▼災害時のバスによる住民避難（茨城県境町）

【広域避難所に向かう避難者】



【バスによる避難の様子】



基本方針5 すべての関係者の連携・協働

- ・公共交通の利用者数回復に向けて、関係者が連携して利用促進施策を推進します。
- ・公共交通を利用する際に必要な情報について、交通事業者や市が連携して周知・PRし、日常的に公共交通を使ってもらえるような風土づくりを促進します。
- ・地域企業と行政のパートナーシップを強化するしくみづくりを推進します。
- ・各種生活利便施設や観光施設と連携した取り組みを推進します。

主な実施事業

商業・観光施設と連携した公共交通利用者特典の提供

市内観光施設の入場料と各種特典、鉄道・路線バスの運賃がセットになった企画きっぷの販売を継続します。また、公共交通を利用して商業施設や観光施設等を訪れた人を対象に、施設で利用できる割引券やポイント等の特典を提供する取り組みを実施します。

▼企画きっぷ（名鉄）



これが
おトク! 🚆 犬山までの名鉄電車往復割引乗車券

+

これが
おトク! 🏯 国宝犬山城 入場券引換券
※犬山城券売所にて犬山城入場券と引換えてご使用ください。

+

これが
おトク! 🍷 日本庭園 有楽苑 入苑割引券

+

これが
おトク! 🍷 犬山城下町クーポン

4. 計画の評価指標

評価指標		現況値	目標値
評価指標 1	公共交通の総利用者数	9,983,742 人/年	11,680,000 人/年
評価指標 2	乗継利便性向上に資する取り組み件数	—	5 件
評価指標 3	公共交通の不満度	19.0%	現況値以下
評価指標 4-1	交通分野での災害協定の締結数	—	5 件
評価指標 4-2	電気バス等の導入台数	—	1 台
評価指標 5	関係者が連携・協働した取り組み件数	—	9 件

5. 計画の達成状況の評価

本計画で位置づけた事業は、毎年度 PDCA サイクルを実施して推進していきます。各事業については毎年度進捗を確認し、評価内容を次年度以降の事業へ反映します。中間年度及び最終年度には、計画目標の達成度について評価・検証を行い、必要に応じて計画を見直します。

▼計画の評価・検証スケジュール

